

ドルビーが「Dolby Cinema®(ドルビーシネマ)特別体験会」を開催

樋口真嗣監督と音楽家・岩崎太整氏が登壇し、

ドルビー技術がもたらす“究極の没入感”を語る



東京（2026年5月1日）-没入型エンターテインメント体験のリーダーであるドルビーラボラトリーズ（NYSE：DLB、以下ドルビー）は、日本国内11館目のドルビーシネマとなる「TOHO シネマズ大井町」の開業を記念し、4月21日（火）に「Dolby Cinema（ドルビーシネマ）特別体験会」を開催いたしました。当日は、ドルビーラボラトリーズの日本法人社長兼東南アジア・大洋州統轄の大沢幸弘をはじめ、映画監督の樋口真嗣氏、音楽家の岩崎太整氏が登壇。さらに、来賓として西岡徳馬氏、南果歩氏、別所哲也氏らが来場し、ドルビーシネマならではの映像・音響体験について、それぞれの立場から感想と期待を語りました。

ドルビーのエコシステムと、ドルビー体験の最高峰としてのドルビーシネマ

<本件に関するお問い合わせ先>

Dolby Japan PR 事務局（プラチナム内）担当：吉田、今野、佐藤

TEL：03-5572-6071 Mail: dolby-pr@vectorinc.co.jp

イベントの冒頭では、ドルビーラボラトリーズの日本法人社長兼東南アジア・大洋州統轄の大沢幸弘が登壇し、ドルビー技術がすでに私たちの日常の中に幅広く浸透していることを紹介しました。Apple Music の空間オーディオ、スマートフォンで撮影される映像技術、SNS 上の動画体験など、日常のさまざまな接点に「Dolby Atmos®（ドルビーアトモス）」や「Dolby Vision®（ドルビービジョン）」が活用されていることに触れながら、劇場におけるその特長としてドルビーシネマの価値を説明しました。



また大沢は、日本におけるテレビなどハードウェアのドルビー技術搭載率の高さを評価する一方、放送・配信分野やモビリティ領域においても、今後さらに可能性が広がっていくとの期待を表明しました。家庭、外出先、そして車内に至るまで、より豊かで没入感のあるエンターテインメント体験を届けていくことが、ドルビーの目指す世界観であると語りました。

最後に、「今夜は、ドルビーの魅力を集中的に体験いただける特別な機会です。日本の素晴らしい作品が、最高の技術によってさらに豊かな体験として世界へ広がっていくことを願っています」と述べ、体験会の幕開けを告げました。

### ドルビーシネマを支える3つの要素を紹介

続いて、ドルビージャパン シネマ&コンテンツソリューション部 部長の尾崎卓也が登壇し、ドルビーシネマを支える3大要素である「ドラマチックな映像体験」「心揺さぶるオーディオ体験」「究極のシアターデザイン」について解説しました。



映像面では、最新鋭のHDR技術であるドルビービジョンに対応したデュアル・レーザープロジェクターによって、圧倒的なコントラストと豊かな色彩表現を実現。深い黒の表現と鮮やかな光の再現により、映像に自然な奥行きと実在感をもたらします。音響面では、ドルビーアトモスによる立体音響技術が、劇場全体を包み込むようなサウンド体験を提供します。天井を含めて配置されたスピーカーによって、音が空間内を自在に移動し、観客は物語の中に入り込んだかのような没入感を味わうことができます。さらに、劇場空間そのものも、作品世界への没入を高めるため

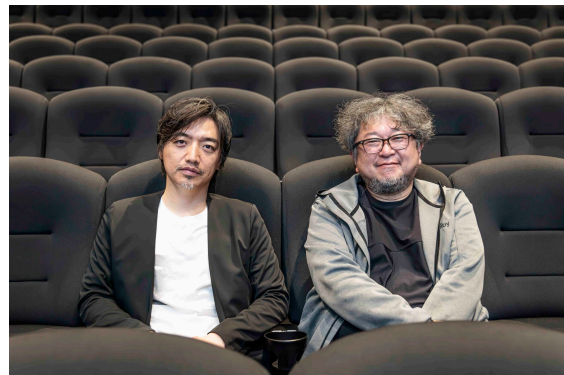
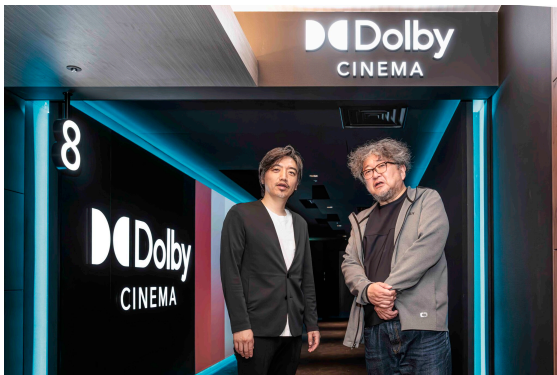
### <本件に関するお問い合わせ先>

Dolby Japan PR 事務局（プラチナム内）担当：吉田、今野、佐藤  
TEL：03-5572-6071 Mail: dolby-pr@vectorinc.co.jp

に設計されています。黒を基調とした内装や座席レイアウト、入場時に観客を作品世界へと導く AVP（オーディオ・ビジュアル・パスウェイ）など、上映前から特別な体験が始まるよう細部まで工夫が施されています。

尾崎はあわせて、ドルビーシネマがこうした体験価値を背景に、世界的に導入を拡大していることにも触れました。現在、ドルビーシネマは世界 17 カ国、39 の興行会社により、300 以上のスクリーンで展開されており、今後もさらなる拡大が見込まれています。作品面でも、ハリウッドのすべてのメジャースタジオがドルビーシネマ規格を採用しており、これまでに 860 作品以上が公開されています。邦画においても採用は年々広がっており、現在 80 作品以上がドルビーシネマで公開されていることを紹介し、グローバルでも日本国内でも、ドルビーシネマがプレミアムな映画体験のフォーマットとして存在感を高めていることを示しました。

### 樋口真嗣監督と岩崎太整氏が語る、クリエイター視点でのドルビーシネマの魅力



デモンストレーション上映の後には、樋口真嗣監督と音楽家・岩崎太整氏によるトークセッションを実施しました。実際にドルビーシネマで映像と音響を体験した直後の感想として、両氏はその圧倒的なスケール感と精緻な表現力に言及しました。



樋口監督は、巨大なスクリーンと高密度な音響が生み出す体験について、「作り手が本来届けたかった表現を、よりダイレクトに観客へ届けることができる環境」だとコメント。映像や音の質感、空間の広がりまで含めて、制

#### <本件に関するお問い合わせ先>

Dolby Japan PR 事務局（プラチナム内）担当：吉田、今野、佐藤  
TEL：03-5572-6071 Mail: dolby-pr@vectorinc.co.jp

作者の意図が高い精度で再現されることは、作品づくりに携わる側にとって大きな信頼につながると語りました。

岩崎氏は、ドルビーアトモスについて「音の空間そのものを表現の一部として扱えるようになった感覚がある」と語り、従来のステレオやサラウンドでは得られなかった立体的な感情表現の可能性に触れました。映画音楽や劇伴においても、空間全体を使った演出によって、作品の世界観や感情の動きをより繊細に伝えられるようになると、その魅力を説明しました。



また、両氏は、家庭での視聴環境が向上している今だからこそ、劇場で体験する意味がより際立つことにも言及しました。スマートフォンや家庭でもドルビー技術に触れる機会が広がる一方で、劇場空間ならではの圧倒的なスケールと集中できる環境が、観客に特別な体験をもたらすことへの期待を語りました。

セッション終盤には、樋口監督がユーモアを交えながら、「劇場で最も多くの人が目にする“映画泥棒”の映像こそ、ドルビーの力で最高の音質にしてほしい」とコメントし、会場の笑いを誘いました。作品本編にとどまらず、映画館全体の体験価値にまで視線を向ける、樋口監督ならではの発言として印象的な一幕となりました。

## 来賓ゲストもドルビーシネマの体験価値を高く評価

イベント後半では、来賓として参加した西岡徳馬氏、南果歩氏、別所哲也氏が、ドルビーシネマを体験した感想を語りました。

西岡徳馬氏は、音と映像の迫力が作品世界のリアリティを大きく引き上げることに驚きを示し、「ここまで表現の解像度が上がると、演技そのものにも大きな影響があるのではないか」とコメント。俳優の立場から、映像と音響がより高精度になることで、演技にもいっそうの真実味が求められることを実感したと語りました。

南果歩氏は、「映画は“観る”だけでなく、“体感する”ものだというのを改めて感じた」と述べ、音やセリフ、空気感までもが身体に届くような臨場感を高く評価しました。映

### <本件に関するお問い合わせ先>

Dolby Japan PR 事務局（プラチナム内）担当：吉田、今野、佐藤  
TEL：03-5572-6071 Mail: dolby-pr@vectorinc.co.jp

画館は日常から切り離された特別な空間であり、その魅力をあらためて強く感じる機会になったと話しました。

別所哲也氏は、「俳優としてだけでなく、映像文化の発展に関わる立場からも今回の体験に大きな刺激を受けた」と語りました。映像・音響技術の進化が、表現の現場に新たな可能性をもたらしていることに触れながら、次世代のクリエイターたちにとっても、こうした技術がより身近な選択肢となっていくことへの期待を寄せました。

## Dolby（ドルビー）について

[ドルビーラボラトリーズ](#)（NYSE：DLB）は、没入型エンターテインメントの世界的リーダーです。映画やテレビから、音楽、スポーツ、ゲーム、そしてその先まで、ドルビーは視覚と聴覚の科学を、世界中の何十億人もの人々が愛用するあらゆるデバイスを通じて、壮大な体験へと変革しています。当社は、アーティスト、ストーリーテラー、そして皆様が愛するブランドと提携し、[Dolby Atmos](#)、[Dolby Vision](#)、Dolby Cinema といった画期的なイノベーションを通じて、エンターテインメントとデジタル体験を変革しています。

Dolby、ドルビー、Dolby Cinema、Dolby Atmos、Dolby Vision、およびダブルD記号は、米国とまたはその他の国におけるドルビーラボラトリーズの登録または登録商標です。その他の商標はそれぞれの合法権利保有者の所有物です。

### <本件に関するお問い合わせ先>

Dolby Japan PR 事務局（プラチナム内）担当：吉田、今野、佐藤  
TEL：03-5572-6071 Mail: [dolby-pr@vectorinc.co.jp](mailto:dolby-pr@vectorinc.co.jp)